

飯舘村長泥地区環境再生事業技術検討ワーキンググループ（第3回）
議事要旨

日 時	平成 31 年 4 月 24 日（水） 10：00～12:20		
場 所	飯舘村長泥地区再生資材化エリアプレゼンテーションルーム		
出席者	委 員	飯舘村	<ul style="list-style-type: none"> ・飯舘村長泥行政区 嶋原 清三 ・飯舘村内農業有識者 菅野 元一
		学識経験者	<ul style="list-style-type: none"> ・東京大学大学院農学生命科学科 教授 根本 圭介 ・特定非営利活法人放射線安全フォーラム 多田 順一郎 ・国立研究開発法人農業・食品作業技術総合研究機構 環境情報基盤研究領域 ・農業環境変動研究センター 環境情報基盤研究領域 ・土壤資源評価ユニット兼本部企画戦略本部 上級研究員 ・万福 裕造
	事務局等	<ul style="list-style-type: none"> ・飯舘村復興対策課・建設課 ・環境省環境再生・資源循環局環境再生事業担当参事官室 ・福島地方環境事務所中間貯蔵部中間貯蔵総括課土壤再生利用推進室 ・原子力安全研究協会 ・除去土壌等減容化・再生利用技術研究組合 ・サンコーコンサルタント 	
議事要旨	<p>○事務局より「飯舘村長泥地区環境再生事業に係る技術検討ワーキンググループの設置要綱の改訂について」設置要綱の改定案に基づき説明を行い特に異議なく承認された。</p> <p>○事務局より「ポット試験分析結果に対する評価」の説明を行った後、質疑応答により以下の点が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験栽培結果については、住民の方への分かりやすく説明できるようにすること。 ・ポット栽培の移行係数は、一般的に大きめの値となるため、露地栽培の結果と比較し評価すること。 ・実際の営農では、栽培と施肥を繰返し行うことから、試験栽培においても繰返し実施について検討すること。 ・セシウム移行性については、カリウム濃度を変化させ追加で検討すること。 ・セシウムの固着化については、乾燥と湿潤の繰返しにより変化するため、乾燥・湿潤を繰り返した再生資材を用いた試験の実施について検討すること。 <p>○事務局より「今年度の試験栽培の実施内容」の説明を行った後、質疑応答により以下の点が確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・覆土材の厚さは、試験栽培等の結果を踏まえ、検討すること。 ・ハウス栽培で行う土壌改良方法の検討において、「籾殻くん炭」を利用することになっているが、飯舘村で利用していないため再度見直すこと。 <p>○事務局より参考資料1「環境再生事業の概要」について説明を行った。</p> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元住民からの可食物栽培の要望に対し、飯舘村役場と地元関係者で実施に向け調整している。 ・栽培実証で使用する水の計測計画について、次回のワーキンググループでの説明すること。 <p style="text-align: right;">以上</p>		